

実施日：1月25日（5校時）	
領 域：教科（社会科）	
取組名：『平和な世界を実現するための意見文を書こう！』 （東京書籍 新しい社会6（政治・国際編）「3 世界の中の日本」）	
対 象：第6学年	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界中の社会的課題に触れ、日本人が課題解決のために国際連合や青年海外協力隊、NGOなどの活動を通して積極的に世界の平和維持や発展に貢献していることを理解することができる。 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携や協力について、資料で調べ必要な情報を集め読み取り、調べたことを図表や文などにまとめることができる。 国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることを自覚し、グローバル化する国際社会における我が国の役割について自分の思いや考えを伝え合おうとしている。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>○ 単元計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの小単元に基づき学習を展開する。1つ目は、日本とつながりの深い国についての調べ学習を行う。2つ目は、世界平和の実現のために行う国際協力について、自分の考えを表す内容とする。 2つ目の小単元の終盤で、平和な世界を実現するための意見文を書くために、一次の終盤で他国の文明や文化を学んだことから「違いを認め合う」心構えを学ぶ。二次では紛争や難民問題にクローズアップすることで「誰もが幸せに生きる権利をもつ」ことに視点をあて、平和の実現のために自分や自分たちに何ができるのかを考え表現していく。 	
ウ 連携先：児童、家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>本時では難民問題を中心に扱うため、難民の実態やその支援についての資料を新聞などから抜粋し、学習者の児童が資料から読み取ったことを基に自分ごととして問題解決していこうとする展開になるようにした。また、家庭でも人権問題について話し合う機会を設けていただくことで、難民問題により関心をもてるようにした。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <p>本単元で取り扱う資料が、平和な世界を実現する為の意見文を作成するに適した教材になるかどうかを研究会で議論し、人権教育の視点からねらいにせまるよう改善を図った。</p>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の児童の発言 ふり返り 	
<p>キ 成果</p> <p>単元計画の段階で人権教育に関する今日的課題に沿った内容を盛り込むことで、ニュースなどで見聞した知識や考えを基に議論する児童の姿が見られた。その姿を見て考えを改めた児童もいたことから、良い影響を与え合う時間となった。また、日本の抱える諸課題に対して当事者意識をもちながら議論に参加することで、今後の日本を担う立場として課題解決に向かう意欲をもたせることができた。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>難民の方との直接的な関わりが乏しく、当事者のしんどさや希望について間接的な情報（動画など）でしか得られていなかったことから、難民当事者の抱える課題意識（入国不可の際の代替案の乏しさなど）に深く迫ることができなかつた。また、児童それぞれが難民の実態について調べていたが、一部の児童はグループ内での議論に参加はできたものの全体での議論の場面では表現することが見られなかつたため、人権課題を主体的に解決していく姿勢をつけさせることに課題が見られた。</p>	